

2
預言者たち
聖徒伝 136

「逃れの道を選 び取ろう」

オバデヤ書

主の日・諸国民の裁き イスラエルの回復

Shikaoichurch.com

アウトライン

0. イントロダクション

I. エドムへの裁き オバデヤ書1～9章

II. 裁きの理由 オバデヤ書10～14節

III. 主の日の裁き

① エドムの裁き オバデヤ書15～16節

② メシア的王国 オバデヤ書17～21節

IV. まとめと適用

逃れの道を確認もって歩もう



ペトラ



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

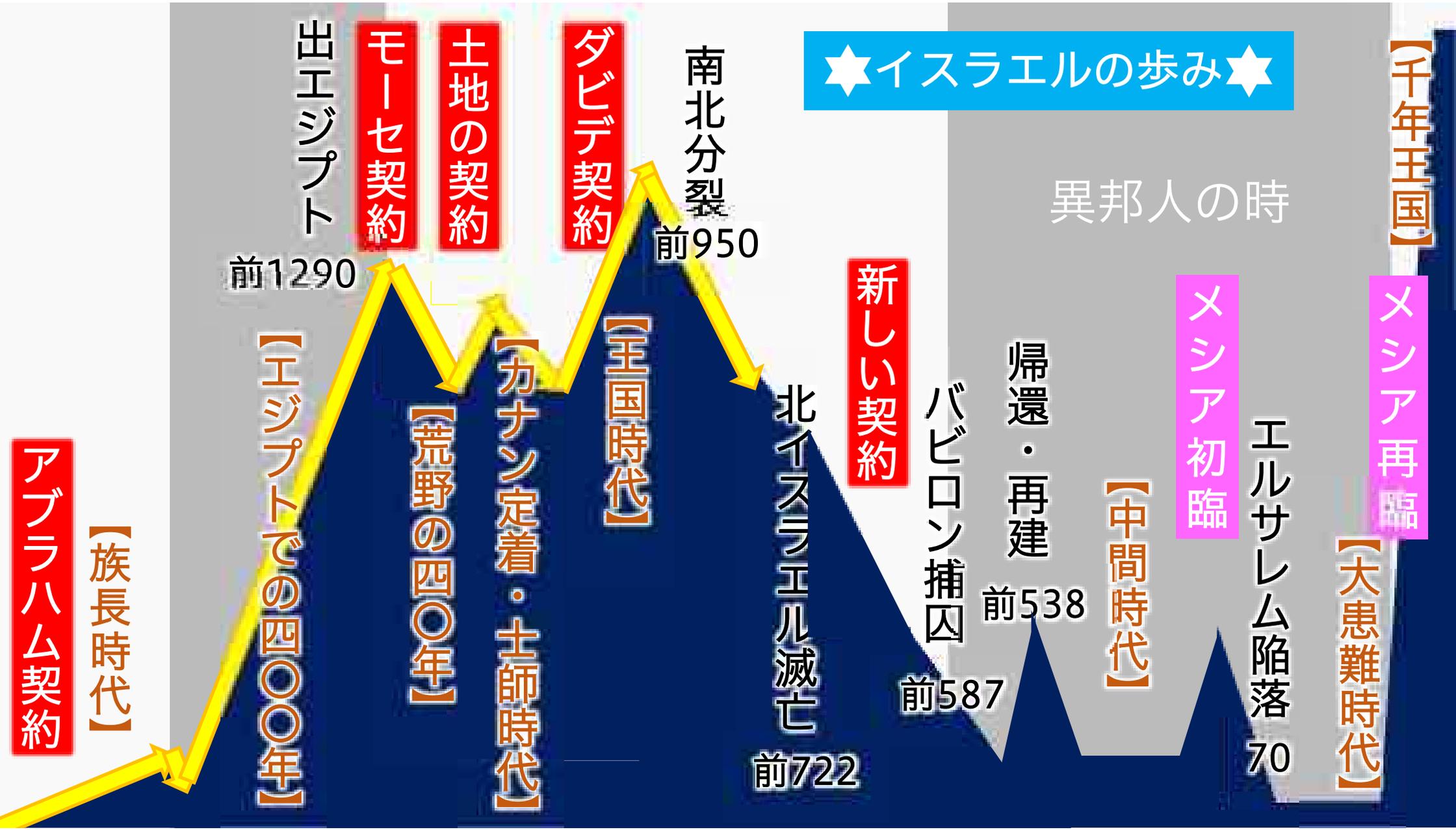
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



異邦人の時

【千年王国】

メシア再臨

【大患難時代】

エルサレム陥落 70

メシア初臨

【中間時代】

帰還・再建

前538

バビロン捕囚

前587

新しい契約

北イスラエル滅亡

前722

南北分裂

前950

ダビデ契約

【王国時代】

【カナン定着・士師時代】

【荒野の四〇年】

モーセ契約

出エジプト

【エジプトでの四〇〇年】

前1290

【族長時代】

アブラハム契約

オバデヤ書とは？

■ 著者

オバデヤ = “主のしもべ” …他に個人的情報は一切なし。

■ 活躍場所 …南王国、ユダ

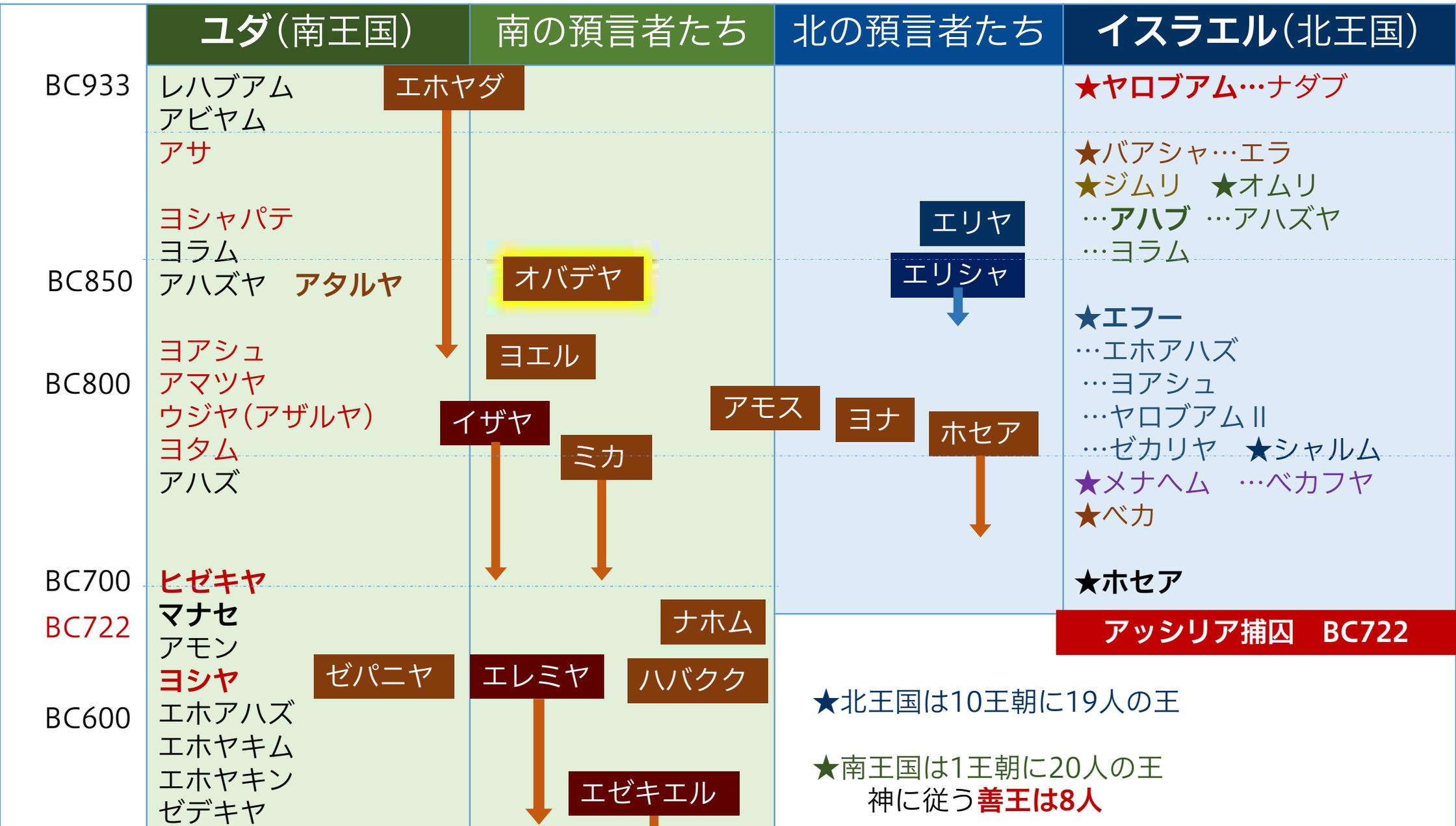
■ 時代については、大きく二つの説がある

こちらを採用

① BC845年頃…ヨラム王の時代。

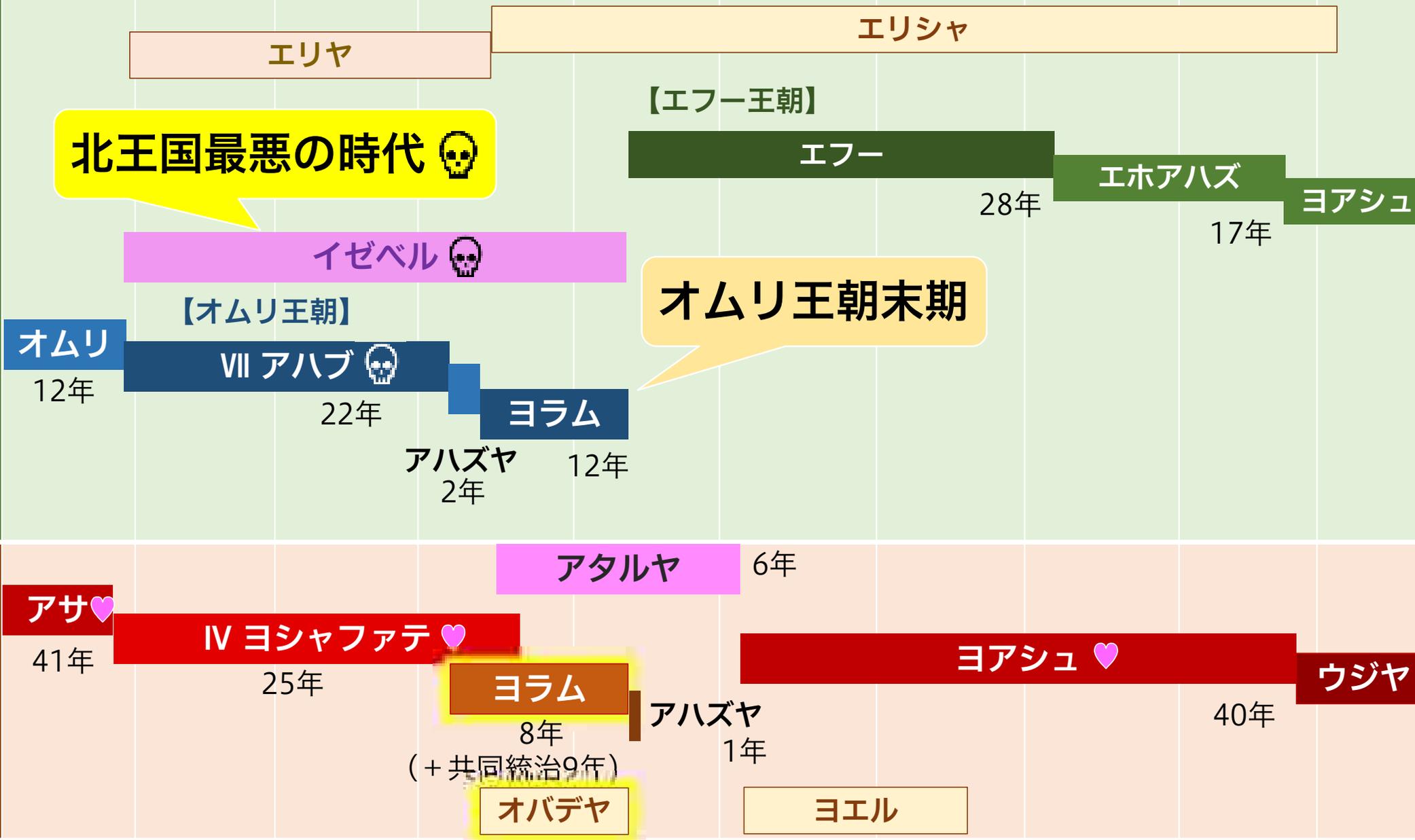
- イゼベルの娘アタルヤと結婚。バアル礼拝を推進。
- ダビデ以来、朝貢していたエドムがユダから独立。
- ペリシテ、アラビヤのエルサレム侵略(Ⅱ歴21:16~17)

② BC586年頃…バビロン捕囚の頃。



北王国 イスラエル

南王国 ユダ



南北時代は、預言者の時代

■ **預言者**とは、「**神の言葉を預かり、民に告げる者**」

→ **予見者**、**神の人**とも呼ばれる。…アブラハム、モーセも預言者。

■ 最初に**預言者**を組織化したのが、サムエルだった。(1サム10章)
ダビデが組織した奏楽隊は、**預言者**集団でもあった。(1歴25:1)

■ **預言者**たちは、神の律法を学び、人々に教えた。

危機の時代には、時に、**神の直接の言葉(預言)**を王や民に告げた。

■ 南北時代、エリヤは残された信仰者たちを集め、**預言者学校**を建設。
多くの預言者が、王と民へ派遣。律法を教え、神の警告を告げた。
膨大な預言が記録された背後に、組織された預言者たちの存在が!!

南北時代の預言者たちが告げたこと

■理解のために大きく三つのテーマに分けるなら…。

①差し迫った危機の警告・悔い改めの促し

飢饉、戦争、帝国の侵略(アッシリア、バビロニア)

②世の終わりの「主の日」の裁き

主の日…大患難時代。イスラエルの裁き、諸民族の裁き

③メシアによる救い・世界の回復

イスラエルの救い。異邦人の救い。

順番通りではない!!
複雑に重なり、連続し
絡み合っている

【預言者視点で見る預言書は、こんな感じ？ 実際は？】



【預言者たちが告げたこと】



オバデヤ書のテーマは？

①差し迫った危機の警告・悔い改めの促し

飢饉、戦争、帝国の侵略(アッシリア、バビロニア)

②世の終わりの「主の日」の裁き

主の日…大患難時代。イスラエルの裁き、**諸民族の裁き
(エドム)**

③メシアによる救い・世界の回復

イスラエルの救い。 異邦人の救い。

主の日における 諸民族(エドム)の裁き イスラエルの救い

旧約聖書におけるエドムの歴史

- ① ヤコブの双子の兄**エサウ**が先祖。
主の継承者はヤコブ。エサウはセイルの山地へ
- ② エジプトから帰還したイスラエル通行を拒む。
- ③ サウル王に仕えていたエドム人ドエグが、
ダビデを匿った祭司たちを虐殺。
- ④ ダビデ時代には、イスラエルに朝貢。
ヨエル王の時に独立。以来、度々ユダと衝突。
→詩篇や預言書では、イスラエルを呪う存在。



ペトラについて知っておこう!!

① BC 5 世紀頃、エドム人を追い出したアラブ系のナバテヤ人が、BC 1 世紀頃に建設。

→イシュマエルの子孫が、エサウの子孫を!!

② 交通の要衝として貿易で繁栄。

AD106年、ローマのアラビア属州に。

AD663年、イスラム帝国の支配後、衰退。

AD749年の大地震で放棄された。

③ エドム人の時代の繁栄を下地にして、ナバテヤ人は隆盛を誇ったのだろう。



Ⅰ. エドムへの裁き

オバデヤ書 1章1～9節



【預言者たちが告げたこと】



南北時代



① 直近の
苦難



② 主の日

- ① 神の裁き
- ② 民族的回心



③ 回復

- ① 聖霊の注ぎ
- ② 千年王国

【幻】 オバデヤ書1:1

オバデヤの**幻***。【神】である主は、エドムについてこう言われる。—— 私たちは【主】から知らせを聞いた。使節が国々の間に送られてこう言った、と。「さあ、立ち上がれ。エドムと戦おう」——

- *次元を超えた事柄を、不思議なビジョンを通して伝える神の手段。
- 律法を教えるのが、預言者の基本。時に主は**幻**をもって語られた。

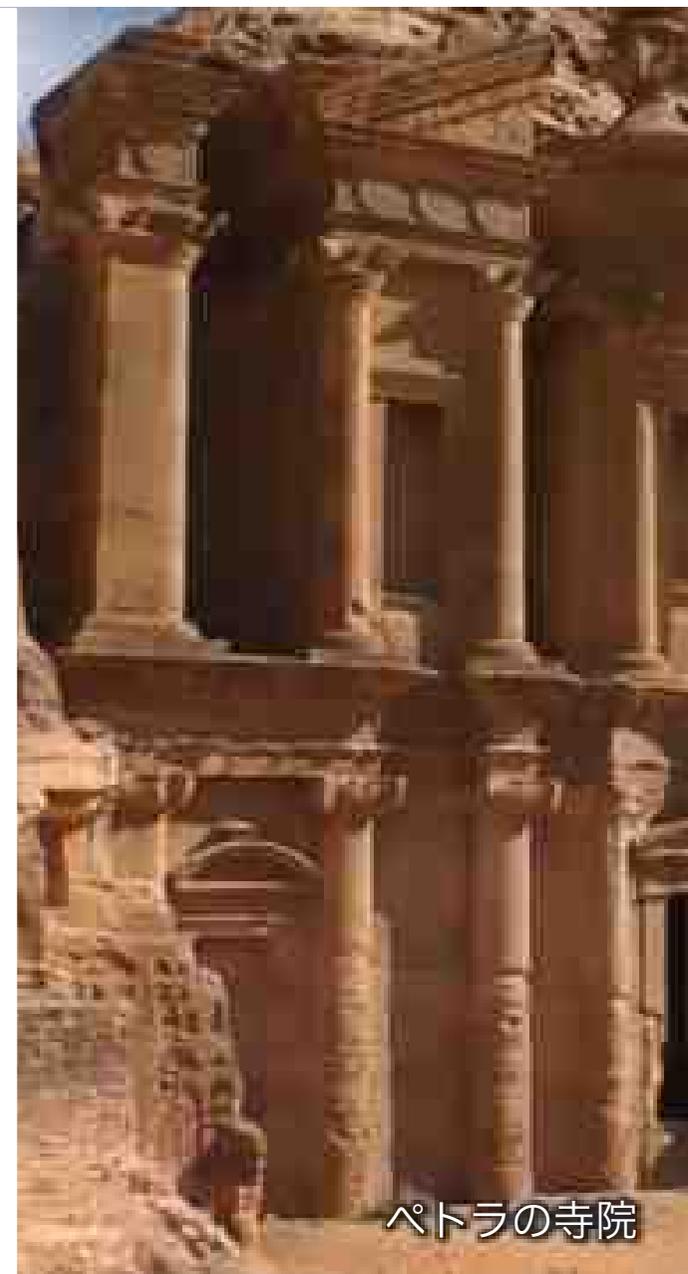


【エドムの高慢】 オバデヤ書1:2~3

「見よ。わたしはおまえを国々の中で小さい者、ひどく蔑まれる者とする。

岩の裂け目に住み、高い所を住まいとする者よ。おまえの高慢は、おまえ自身を欺いている。おまえは心の中で言っている。『だれが私を地に引きずり降ろせるのか』と。

- 岸壁を利用した堅固な町を誇っていたエドム。
 ➔ 現在のペトラは、後のナバテヤ人の町。
- エドムはナバテヤに、ナバテヤはローマに。
 堅固な町は、もろくも陥落した。



ペトラの寺院

【エドムの荒廃】 オバデヤ1:4~5

鷲のように高く上っても、星々の間に巣を作っても、わたしは、おまえをそこから引きずり降ろす。——【主】のことは。

盗人がおまえのところに来るなら、しかも夜に、**荒らす者***が来るなら、——いかに、おまえは荒らされることか——彼らは欲しい分だけ盗んで行くではないか。ぶどうを収穫する者がおまえのところに来るなら、彼らは**取り残しの実を残さないだろうか***。

*究極の破壊者→“荒らす憎むもの”反キリスト

*社会的弱者のための取り残しの実すらない。



【暴かれる秘宝】 オバデヤ書1:6~7

ああ、エサウは捜し出され、その秘宝は見つけ出される。おまえと同盟を組む者たちがみな、おまえを国境まで送り返し、親しい友がおまえを欺いて征服する。おまえのパンを食べていた者が、おまえの足もとに罠を仕掛ける。こんなおまえに英知はない。

- 独自に高度な文明を発達させたエドム。
- しかし、誰も神の裁きからは逃れえない。
神に逆らう者に真の英知は与えられない。



ペトラの宝物庫

【消し去られる英知】 オバデヤ書1:8～9

その日には、——【主】のことば——わたしは、エドムから知恵ある者たちを、エサウの山から英知を消し去らないであろうか。

テマン*よ、おまえの勇士たちは気をくじかれる。虐殺され、エサウの山から一人残らず断ち切られる。

*エドムの地域名。場所は不明。

■英知を消し去られるとは、
繁栄した文明もろとも失われること。



セイルの山地



II. 裁きの理由

オバデヤ書10節～14節

【エルサレム侵略】 オバデヤ書1:10~11

おまえの兄弟、ヤコブへの暴虐のために、恥がおまえをおおい、おまえは永遠に断たれる。

他国人がエルサレムの財宝を奪い去り、外国人がその門に押し入り、エルサレムをくじ引きにして取ったその日*、おまえは素知らぬ顔で立っていた。おまえもまた、彼らのうちの一人のようであった。

*ヨラム王の末期。ペリシテ、アラビヤのエルサレム侵略か(II歴21:16~17)

➡兄弟の危機を見過ごしたエドムの罪



【兄弟の災難の日】 オバデヤ書1:12~13

おまえは兄弟の災難の日に、それを見ていてはならない。ユダの子らの滅びの日に、彼らのことで喜んではならない。その苦難の日に大口をたたいてはならない。

おまえは彼らのわざわいの日に、わたしの民の門に入ってはならない。ほかでもないおまえが、彼の破局の日に、そのわざわいを眺めていてはならない。彼の破局の日に、彼らの財宝に手を伸ばしてはならない。



【主の戒め】 オバデヤ書1:14

その逃れる者を断つために、別れ道に立ちふさがってはならない。その苦難の日に、彼らの生き残った者を引き渡してはならない。

■ アブラハム契約の付帯条項・創世記12:3

「わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。」

■ 大患難時代においては、ユダヤ人にどう接したかが異邦人の永遠の運命を決める。





Ⅲ. 主の日 ①エドムの裁き オバデヤ書15～16節

【預言者たちが告げたこと】



南北時代

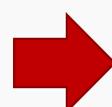


① 直近の
苦難



② 主の日

① 神の裁き
② 民族的回心



③ 回復

① 聖霊の注ぎ
② 千年王国

【近づく主の日】 オバデヤ書1:15

なぜなら、【主】の日がすべての国々に近づいているからだ。おまえは、自分がしたように、自分にもされる。おまえの報いは、おまえの頭上に返る。

■ 主の日は、世の終わりの裁きの時。

神の怒りの盃が地に注がれる時。

➔ 誰もこの裁きを逃れえない。



【滅亡】 オバデヤ書1:16

おまえたちがわたしの聖なる山で飲んだように、すべての国々も絶えず飲み続け、飲んだり、すすったりする。彼らはまるで、いなかった者のようになる。

- エドムのあらゆる痕跡は消し去られる。
- 来るべき神の国において、裁かれた不信仰者たちは、存在そのものすら、完全に忘れ去られているのだろう。





Ⅲ. 主の日 ②メシア的王国

オバデヤ書17～21節

【預言者たちが告げたこと】



南北時代



① 直近の
苦難



② 主の日
① 神の裁き
② 民族的回心



③ 回復
① 聖霊の注ぎ
② 千年王国

【シオンの山】 オバデヤ書1:17~18

しかし、シオンの山*には、逃れの者がいるようになる。そこは聖となり、ヤコブの家は自分の領地を所有するようになる。

ヤコブの家は火となり、ヨセフの家は炎となる。エサウの家は刈り株となり、火と炎は刈り株に燃えつき、これを焼き尽くす。エサウの家には生き残る者がいなくなる。」【主】がこう告げられたのである。

*エルサレム

■勝利か敗北か。明暗の分かれる兄弟民族



【王国の回復】 オバデヤ書1:19

ネゲブ*の人々はエサウの山を、シェフェラ*の人々はペリシテ人の地を占領する。また彼らはエフライム*の野とサマリア*の野を占領し、ベニヤミンはギルアデを占領する。

*ネゲブ …南部の砂漠地帯

*シェフェラ …西の海岸部

*エフライム、サマリア …中央山地

*ギルアデ …ヨルダン川東岸

➡東西南北、完全に回復される約束の地

北は
次章



【メシア的王国の確立】 オバデヤ1:20~21

イスラエルの人々に属する、この一群の捕囚の民はカナン人の地をツアレファテ*まで占領し、セファラデ*にいるエルサレムからの捕囚の民はネゲブの町々を占領する。

救う者たちは、エサウの山をさばくため、シオンの山に上る。こうして、王国は【主】のものとなる。

*シリア …はるか北方までも占領する。

*追放の地の一つ。…トルコ？

セファルディーム(スペイン系ユダヤ人)の語源？

■ アブラハムに約束された全域をイスラエルが支配。





IV. まとめと適用

逃れの道を確認もって歩もう

旧約聖書以降のエドムの歴史

- ⑤ BC 5 世紀ごろに、ナバテヤ人に追い出される。
- ⑥ BC167年頃、ユダヤのハスモン王朝の支配下でユダヤ教に改宗。
その末裔は定住した地から、**イドマヤ人**と呼ばれるように。
- ⑦ ローマに取り入り、イスラエルの王となったのが、
イドマヤ人の末裔である**ヘロデ大王**。
- ⑧ ヘロデー族の滅亡をもって、イドマヤ人の血筋も絶えたと言われている。

預言書のキーワード ①イスラエルの残れる者

「オバ 1:17 しかし、シオンの山には、**逃れの者***がいるようになる。そこは聖となり、ヤコブの家は自分の領地を所有するようになる。」

*信頼した主に守られて、大患難時代を生き延びるイスラエルのこと。

➡ヨエル2:32、イザヤ4:2、37:31~32など

➡2/3が死に、1/3が生き延びる(ゼカリヤ13:8~9)

■いつの時代も、イスラエルの真の信仰者は少数。

➡アハブ時代のエリヤと、北王国に残された7千人の信仰者

➡ペンテコステに福音を信じた3千人。(+後の5千人)

イスラエルの残れる者が、大患難時代、究極的な民族的回心へ!!

イスラエルの残れる者の究極の運命

ゼカリヤ書13:8~9

全地はこうなる——【主】のことば——。

その三分の二は断たれ、死に絶え、**三分の一**がそこに残る。

わたしはその**三分の一**を火の中に入れ、銀を錬るように彼らを錬り、金を試すように彼らを試す。

彼らはわたしの名を呼び、わたしは彼らに答える。わたしは『これはわたしの民』と言い、彼らは『【主】は私の神』と言う。」

預言書のキーワード ②メシア的王国・千年王国

「オバ1:21 救う者たちは、エサウの山をさばく*ため、シオンの山に上る。こうして、**王国***は【主】のものとなる。」

*エドムに向けられた預言なので、エサウの山が強調されている。

→全世界を神の民イスラエルが治めるようになる。

*再臨のメシアが王となる王国。メシア的王国・千年王国。

→エルサレムが世界の中心となり、
イスラエルが諸国民を治める。千年間続く(黙示録20:3~7)

※異邦人信者は、肉体をもって生き延びた信者の増え広がる子孫を治める。

メシア的王国・千年王国

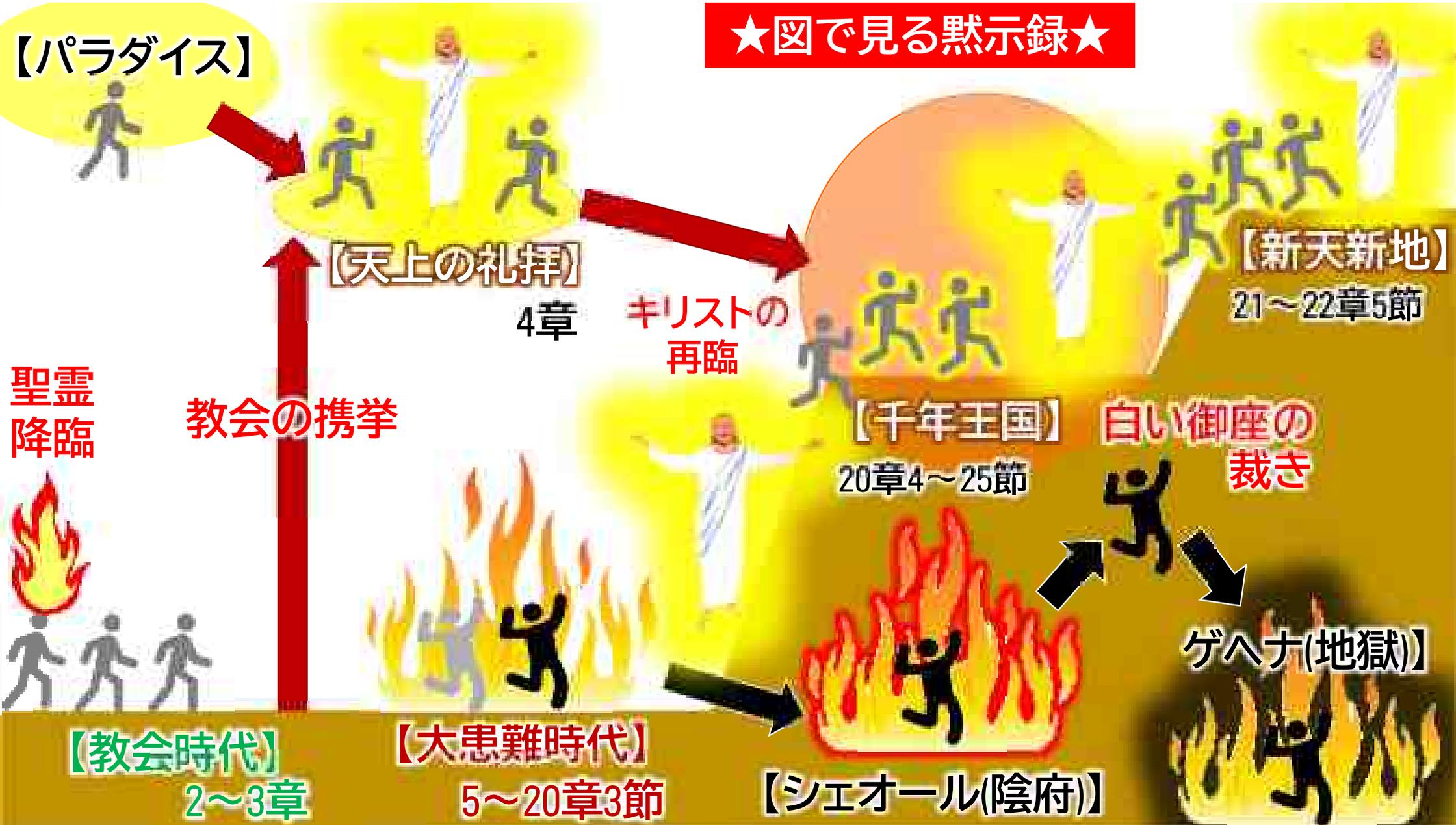
黙示録20:4

また私は多くの座を見た。それらの上に座っている者たち*がいて、彼らにはさばきを行う権威が与えられた。また私は、イエスの証しと神のことばのゆえに首をはねられた人々*のたましいを見た。彼らは獣もその像も拝まず、額にも手にも獣の刻印を受けていなかった。彼らは生き返って、キリストとともに千年の間、王として治めた。

*携挙された信者たち

*大患難時代に救われた信者たち

★図で見る黙示録★



新天新地は、黙示録で初めて啓示
預言書では、千年王国と新天新地の区別はない!!



天地創造

創世記1章1節

地の再創造(エデン)

創世記1章3〜2章3節

天使の
墮落

最初のアダム
人の墮落

キリストの十字架



最後のアダム
キリストの
再臨

キリストによる
最後の裁き

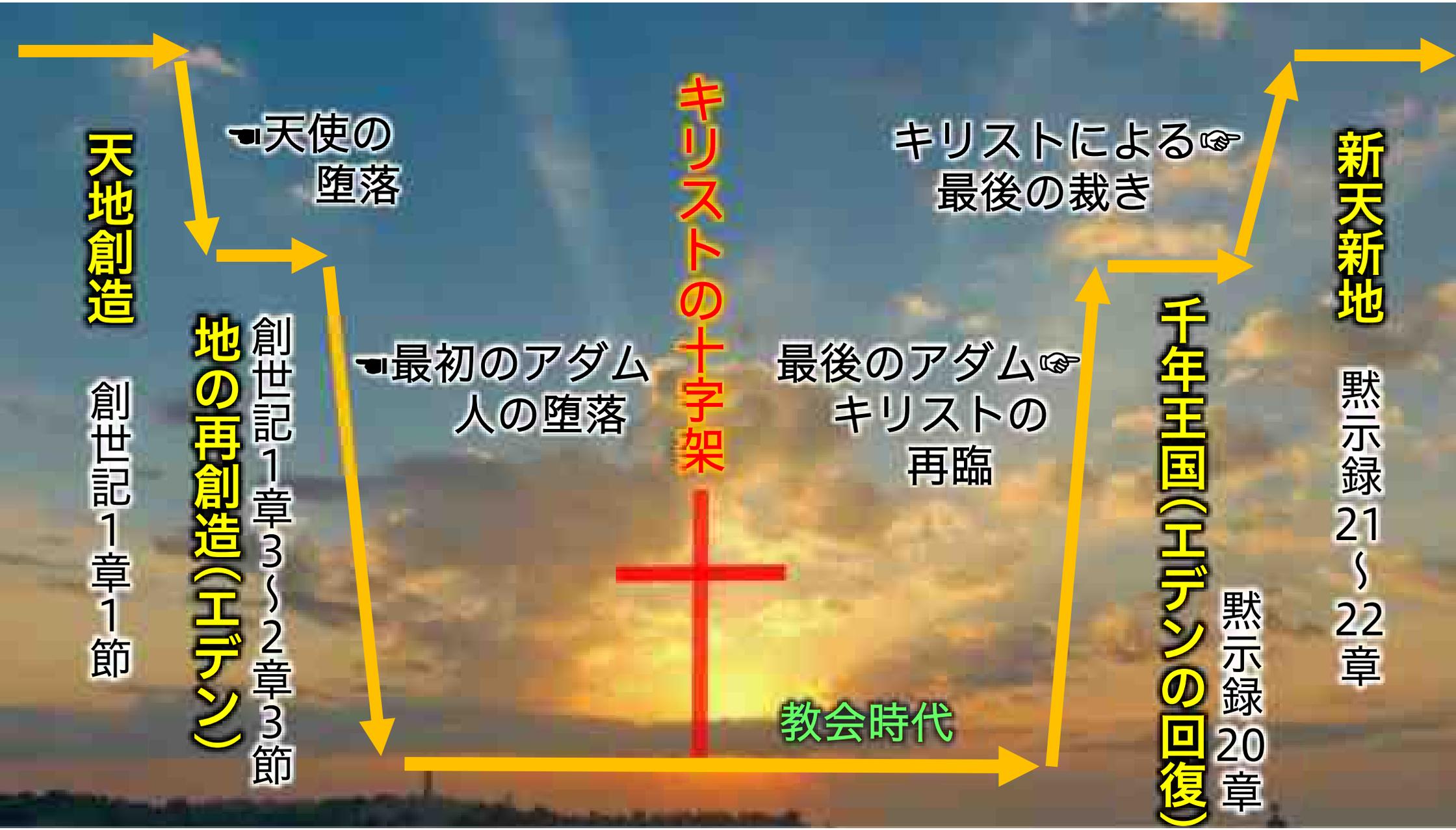
教会時代

千年王国(エデンの回復)

黙示録20章

新天新地

黙示録21〜22章



千年王国におけるエドムの地

イザヤ書34:9~12

エドムの川はピッチに、その土は硫黄に変わる。その地は燃えるピッチになる。

それは夜も昼も消えず、その煙はいつまでも立ち上る。そこは代々にわたって廃墟となり、もうそこを通る者はだれもいない。

ふくろうと針ねずみがそこをわがものとし、みみずくと鳥がそこに住む。主はその上に茫漠の測り縄を張り、空虚の重りを下げる。

そのおもだった人たちで、王権を宣言する者は、そこにはいない。すべての首長たちもいなくなる。

神に背き続けた神の民の兄弟民族・エドムの末路

「イザヤ書34:9～10 エドムの川はピッチ*に、その土は硫黄に変わる。その地は燃えるピッチになる。

それは夜も昼も消えず、その煙はいつまでも立ち上る。そこは代々にわたって廃墟となり、もうそこを通る者はだれもいない。」

*原油などを蒸留した後に残る黒い滓。樹脂状のもの。

■ 誰もいない廃墟が、神の裁きの痕跡として千年間残される。

■ 神の民イスラエルを知らながら、ないがしろにした罪は重い。
異邦人信者として イスラエルの救いのために祈り、捧げているか。

異邦人に与えられた恵みを謙遜に受け取り、使命を果たそう!!

新天新地の前に千年王国がある意味とは？



サタンに破壊されたエデンの完全で十分な回復に現れる神の尊厳

今日の適用・エドムを反面教師に学ぶこと

- 厳しい裁きは、イスラエルに近い兄弟民族であるがゆえ。正しい聖書理解を重ねながら罪を犯せば、責任は重大だと覚えよう。
- 主イエスが厳しく責任を問われたのは、偽教師、偽預言者。聖書の学びを深めるほどに、私、あなたの責任は増していく。
- 知識が行動に結びつかないのは、偽善者。主は激しく拒絶される。信仰者として人格全体が成長しているか。日々問われている。
- 主が、滅ぶべき罪人である私を憐れんで、救い出してくださった。世にあって小さくされた一人に寄り添い、共にへりくだって、主の道を歩んでいこう。

「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、罪を重ねてきました。

わたしは、まぎれもない罪人です。この罪をゆるしてください。

わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

エドムへの主の厳しい裁きを、反面教師とさせていただきます。

聖書の学びを深めるほどに増す、私の責任、使命があります。

イスラエルの救いのために、祈り、ささげます。

へりくだって人々に寄り添い、福音を告げ知らせていきます。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」